

ぶらりわが街宮沢界限

(35) 諏訪神社境内の末社(まっしゃ)の由来

地域の鎮守などある程度の規模の神社には、「本社」とよばれる主祭神を祀る社殿のほか「境内社」と称する小さな社(やしろ)がいくつかある。これは、摂社(せっしゃ)、末社(別名えだみや)とよばれる。本社とゆかりの深い神を祀る境内の小さな神社で、その土地に古くから鎮座していた地主神を祀

るのが摂社とされる。それ以外の神は摂社より格下が末社。

宮沢町の鎮守・諏訪神社には本社の背後に三社(大六天神社、日枝(ひえ)神社、白山神社)、社務所前の池に一社・巖島(いつくしま)神社の末社があります。由来などを記しました。

◆ 大六天神社……

御祭神は神代七代(かみよななよ)の第六代に当たる面足尊(おもたるのみこと)。皇根尊(かしくみのみこと)の夫婦神とされています。古伝によれば、かつて諏訪神社の西方、阿弥陀寺ハケ上墓地北側の一部に有りましたが、大正二、三年頃諏訪神社入り口の阿弥陀寺の所有地と大六天神社の敷地とを交換し、現在地に鎮座しました。

◆ 日枝神社(山王神社)……

御祭神は古伝によれば、大山咋尊(おおやまくいのみこと)と伝えられています。「社神明細書写」によれば「日枝神社八村西北ノ方ニテ、字(あざ)ハケ上に鎮座セシヲ明治元年諏訪神社境内ニ遷座(せんざ)セシ者ナリ」と記されています。

かつて山王(さんのう)山(山王林)と言われていた当社の跡地(宮沢町一丁目社地)は現在都営住宅として使われています。日枝神社(千代田区永田町2-10-5)は、江戸城鎮護の「山王さん」一徳川家康が江戸城内の紅葉山に遷座し、鎮守とした。祭礼「山王祭」は「神田明神」の「神田祭」と並んで江戸を代表する祭りとされ、天下祭とか御用祭などと呼ばれた。

◆ 白山神社……

御祭神は白山比咩命(しらやまひめのみこと)です。御本社は加賀の国の一ノ宮として名高い(石川県白山市三宮町2105-1)鎮座する白山比咩神社です。当社は以前、宮沢町2-1-14に奉斎(ほうさい)されていましたが、昭和43年(1968)10月4日諏訪神社に合祀(ごうし)されました。

白山神社の跡地は、諏訪神社の御旅所(*神霊が神輿に乗って渡御(とぎよ)の際、暫(しばら)く鎮座する所。現代ではテントを張って祭壇を設け、神輿台を備えたものを祭り時に見かける)として使用しています。白山比咩神社は白山信仰の拠点たる神社一霊峰(れいほう)かつ名峰(めいほう)の白山(はくさん)を神体山とし、白山修験の拠点となっている神社。

◆ 巖島(いつくしま)神社……

御祭神は古伝によれば、市杵嶋姫命(いちきしまひめのみこと)と伝えられています。御本社はかつて平家の氏神として厚く崇敬されていた(広島県廿日市(はつかいち)宮島町1-1)に鎮座する日本三大弁財天の一社であり、安芸(あき)の国の一の宮で名高い巖島神社と伝えられています。

清盛が篤(とく)い信仰を寄せた優雅な海上建築(*世界文化遺産登録一御祭神の三姫(市杵嶋姫命、田心姫命、湍津姫命)は海上を守護する神々。日宋(にっそう)貿易を推進した平家は、瀬戸内航路の掌握と、その安全確保に心を砕いていたので、清盛らは巖島神社をひたすら信仰したのである。



大六天神社



日枝神社(山王神社)



白山神社



諏訪神社の御旅所



巖島(いつくしま)神社